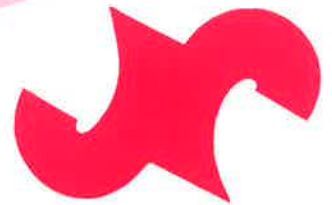


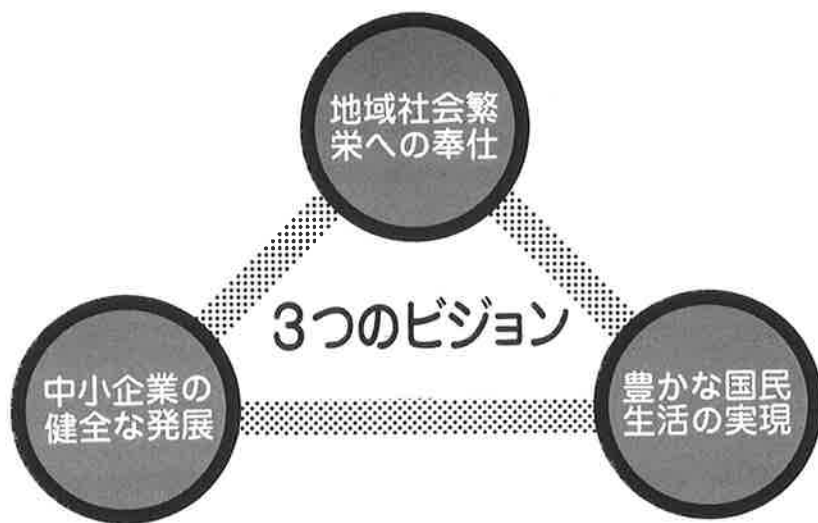
# ともしえ

No. 100



■ 函館商工会議所報 ■  
**1989 8月号**

行動する  
はつらつたる  
商工会議所



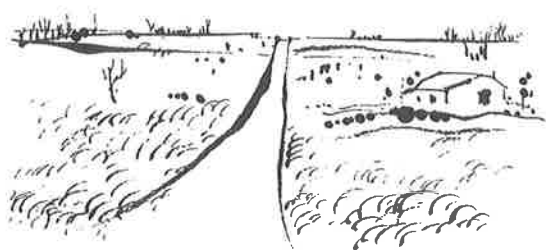
はこしんは豊かな暮らしと  
確かな未来の実現に  
お手伝いいたします。



本部 函館市豊川町7番19号 TEL22-1241(代)

本店	函館市豊川町15番20号	TEL 22-1247(代)	亀田支店	函館市亀田本町56番4号	TEL 42-3820(代)
松風町支店	函館市松風町11番15号	TEL 23-6221(代)	中道支店	函館市中道1丁目24番12号	TEL 51-1711(代)
ばんだい支店	函館市宮前町14番15号	TEL 41-6236(代)	上磯支店	上磯郡上磯町飯生2丁目4番24号	TEL 73-2151(代)
五稜郭支店	函館市本町30番24号	TEL 52-0511(代)	えさん支店	亀田郡恵山町字中浜115番の4	TEL 84-2111(代)
弁天支店	函館市弁天町13番11号	TEL 26-3646(代)	七飯支店	亀田郡七飯町字本町392番8	TEL 65-2501(代)
千代台支店	函館市千代台町12番22号	TEL 51-5238(代)	木古内支店	上磯郡木古内町字本町53番1	TEL 木古内 2-3121(代)
湯川支店	函館市湯川町2丁目18番7号	TEL 57-1492(代)	知内支店	上磯郡知内町字重内13番地の11	TEL 知内 5-5611(代)
花園支店	函館市日吉町1丁目27番3号	TEL 53-5521(代)			

視 点	1
会議所の動き	2
地域の景気	6
調査レポート	8
寄 橋 文	12
Q & A	14
情報コーナー	16
ティータイム	20
ご 案 内	22



### ● 視 点

今日一日、函館市は国際観光都市宣言を行いました。昭和六十年代に入ってから観光客の急増を背景に、安政六年国際貿易港として開港以来、今年には百三十周年目にあたる節目の年でもあり洵に時宜を得た措置だと思えます。函館は、このように外国との長い交流を通じて、欧米の近代文明を吸収する立場にあつたため、日本で最も早く行われたという事業などが結構あります。その主なものを幾つかあげてみますと、

- ・函館山を起点とした日本地図の作製開始・一八〇〇年
  - ・種痘の実施・一八二四年
  - ・カヘル式ストーブの製造・一八五六年
  - ・洋式船箱館丸の建造・一八五七年
  - ・石版印刷・一八六一年
  - ・測候所の開設と気象観測の実施・一八七二年
  - ・日本人の設計施行による上水道の竣工・一八八九年
  - ・自動車専用道路の供用(函館・湯川間)・一九一八年
- などなど、まだ沢山あるようです。

このように過去を振り返ってみますと、その当時の函館の活気ある若々しい姿が想像できます。また、これらの全く新しい仕事をやりとげることができたのは、進取の気性に富んだ方々の指導と、ねばり強い努力があり、そしてこれらを支える経済力があつたればこそと思います。今の函館は、景況も好転しておりますので、前向きに物事を考え、進んで努力を重ねていく最良の機会と思えます。

# 会 議 所 の 動 き



## 当市が国際観光都市を宣言

函館市は、市政施行記念日である八月一日、「国際観光都市」の宣言を行いました。

当日は、市内豊川町の金森ホールにおいて木戸浦函館市長をはじめ、本所川田会頭や鈴木函館観光協会会長など関係者二百余人が出席して、「観光都市宣言式」を行いました。

式典では、まづ木戸浦函館市長から国際観光都市としての宣言が行われ、続いて、本所川田会頭から「当地域においては、昨年の青



函連絡船の終航や青函トンネルの開業また、それを記念した青函博などによる観光客の急増を背景に、国際観光モデル地区の指定そして函館山展望台の新改築、ロープウェイの大型化、宿泊施設の整備拡

充など、主として観光に重点をおいた施策が推進され、また、それらに関連した民間設備投資にも大きなものがみられています。

一方、四全総で位置づけられた仙台、札幌圏に次ぐ北日本第三の経済文化圏を形成するための青函

## 本所川田会頭が就任

本紙先月号でもお知らせ致しましたとおり、旧青函連絡船摩周丸の保存・活用並びに旧青函連絡船棧橋を含む若松ふ頭地区の再開発を目的とした第三セクター、「株函館シーポートプラザ」の創立総会が去る七月二十六日、函館ハ

インターブロック交流圏計画や本年三月締結された青森、函館両市によるツインシティの交流事業計画のいずれにおいても、観光は重要な施策として位置づけられており、百三十年にもわたる諸外国との交流による歴史とともに函館山、ウォーターフロントなどの優れた自然景観の中にある当地域は、広域観光圏の重要な拠点地区として、今後とも地域の振興発展に大きく寄与していくものであると確信しており、当商工会議所といたしましても、よりよい観光都市を目指して、さらに努力を重ねて参りたい。との祝辞がなされました。

バービュールホテルで開催されました。

総会には、木戸浦函館市長や本所川田会頭のほか、地元民間企業などの関係者三十余人余が出席し、定款の承認とともに取締役や監査役の選任が行われました。その後、

第一回目の取締役会が開催され、社長に川田寛本所会頭、専務に吉本英明JR北海道函館若松ふ頭再開発準備室長、取締役には青山繁樹JR北海道函館支社長はじめ六名の方がそれぞれ選任されました。同社は、函館市や本所をはじめJR北海道、民間企業など十四の

## 日航函館・東京線が就航

本所ではかねてより函館・東京線ダブルトラックングについて要望・陳情を重ねてまいりましたが、このたびの日航による函館・東京線の就航により、ようやく実現を見るに至りました。去る七月二十二日には同社の就航を記念して日航の山地社長をはじめ横路北海道知事、木戸浦函館市長、本所川田会頭などの臨席のもとに第一便の出発セレモニーが函館空港で行われました。同路線は、昭和三十五年に開設されて以来、東亜国内航空（現、日本エアシステム）が一時（四年間）就航していた以外は、全日空一社のみ乗入れとなつてい

団体や企業の出資三億四千五百万円で設立されましたが、今年末には資本金四億八千万円に増資の計画もあり総事業費二十億円余で、来年七月のオープンを目指した同地区の再開発事業が間もなく本格的にスタート致します。

ましたが、昭和六十二年に同路線の年間乗降客数が約七十九万人に達してダブルトラックングの基準を上廻ったこともあり、函館空港

## 函館の夏まつり！賑やかに開催

函館の夏を華やかに彩る高田屋嘉兵衛まつりと函館港まつりが、七月下旬から八月初めにかけて相次いで開催されました。今年が開港百三十周年目に当り、観光都市宣言を八月一日に行った国際観光都市・函館にふさわしい賑やかなまつりが繰り広げられ過去最高の入出を記録しました。

整備促進連絡協議会をはじめ地域をあげて続けてきた強力な陳情活動が実を結びました。

今回就航した日航便は、一日二往復で、この結果函館・東京便は従来より一便増の七便となりましたが、大型機の就航もあり客席数は二十五%もの増となりました。

日航の同路線就航は、今後の観光振興や企業誘致の面で大きな推進役になるとともに、将来の函館空港の国際化に向けて、新たな第一歩を踏み出したともいえます。

まず、高田屋嘉兵衛まつりですが、嘉兵衛が千島の国後、択捉両島間に航路を開き、箱館を拠点として北方開発や北洋漁業に偉大な足跡を残すなど函館発展の先駆者となったことを偲んで開催されるもので、今年第十四回目となりますが、二十九日の顕彰・慰霊式では協賛会長である本所川田会頭

や嘉兵衛の出身地である淡路島五色町の関係者などの参列のほか、今年から北方領土返還を願った「北方領土踊り」が初めて披露されました。また三十日には「布団壇尻」が加ったパレード等が行われました。

さらに、開港百三十周年の節目の年を迎えた「函館港まつり」も八月一日の二千発にも及ぶ全国花火大会の開催を始めに一週間におたって多彩なイベントを盛り込んで、賑やかに繰り広げられました。今年メインイベントである「一万人踊りパレード」が、従来の一日から二日間におわたって行われる一方で、特に今年結締された青函ツインシティ交流事業としての「青森ねぶた」の「一万人踊りパレード」への初参加などにより、まつりを一層盛り上げました。今年のパレードには、二日間合わせて百十三団体、一万七千人余が参加しました。本所も大人数を繰り出した亀田商工会、そして銭亀沢商工会の皆さん方ともども揃いの浴衣姿で踊り歩き、沿道の見物客から多くの声援をうけました。

# 函館市功勞者表彰式開催!

毎年、市政の各分野で功績を積み重ねられ、当市発展のために貢献されてきた方を表彰する「函館市功勞者表彰式」が、去る八月一日、函館市民会館小ホールで開催され、教育・文化・経済活動などに功績のあった十一名の方にそれぞれ表彰状と記念品が贈られました。本所関係では、村瀬順一郎副会頭が鉄工業の技術開発に対する功績で下郡山信一副会頭は流通機構の近代化に尽力された功績に対し夫々表彰されました。



当日は、木戸浦函館市長から「長年にわたり功績を積み重ねられ当市発展のためにご尽力下さいましたことに深く感謝します。」とお祝いの挨拶があり、受賞者を代表して住田与一郎氏から「今日の榮譽は、ひとえに皆様方のご協力のおかげであり、今後もこの榮譽に恥じぬよう、一層の精進に励みます。」との謝辞が述べられ式典を終りました。

当日の受賞者は次の通りです。  
 ◎公共功勞（七名）  
 住田与一郎・中川清一・小松義隆

下郡山信一・笹島吉平・村瀬順一郎・本田嘉夫  
 ◎農業委員功勞（一名）  
 佐藤良作

◎職員功勞（三名）  
 叶邦武・堀越富雄・千葉敬寿



本所副会頭  
 (株)村瀬鉄工所  
 取締役社長  
 村瀬順一郎



本所副会頭  
 (株)カネマル  
 代表取締役社長  
 下郡山信一

# 年金共済で 功勞の共済推進員42人を表彰!

本所では、本年二月一日より、会員事業所の事業主及び役職員を対象に、自助努力型の年金共済制度を創設し、現在までに約四千人のご加入を頂き好評を博しておりますが、去る八月八日には本制度

の加入者募集において本所受託保険会社八社で目標を達成された共済推進員四十二人の方が功勞者として表彰されました。表彰式では、本所高野副会頭より受賞者にそれぞれ感謝状と記念



品が送られた後、同副会頭よりお祝いと、ねぎらいの言葉があり、さらに「高齢化社会へ向かう中で、豊かな老後の生活を保障するため創設された制度であり、今後の円滑な推進のため、皆様の特段のご協力をお願いしたい。」と挨拶がありました。続いて幹事会社である明治生命の塚田函館支社長よりお礼を兼ねた挨拶がなされ、式を終えました。

本所では、この制度をはじめとして、安い掛金で優れた保障をモットーに各種共済事業を実施して、会員事業所の福祉の向上に努めておりますので、会員皆様の一人でも多くの方々のご加入をお待ちしております。

# 事務局日誌

7 月

**\* 部 会**

- 17(月) 六部会正副部会長会議
- 24(月) 商業部会 (議員)
- 25(火) 農水産部会 (議員)
- 26(水) 工業部会 (議員)
- 〃 理財部会 (議員)
- 28(金) 運輸港湾部会 (議員)
- 〃 観光サービス部会 (議員)

**\* 正副会頭会議**

- 6(木) 第22回正副会頭会議
- 14(金) 第23回正副会頭会議
- 25(火) 第24回正副会頭会議

**\* 会 議 (日商)**

- 6(木) 平成元年度北海道・東北ブロック「経営安定特別相談室」設置商工会議所担当者会議

**\* 会 議 (道商連)**

- 31(月) 平成元年度小規模事業指導推進費補助金等交付申請並びにそれに伴う事務打合せ会

**\* ブロック会議**

- 10(月) 道南商工会議所連絡協議会専務理事会議

**\* ◎ 審 査 会**

- 11(火) 小企業等経営改善資金の審査会
- 26(水) 〃 〃

**\* 諸 会 議**

- 3(月) 函館シーポートプラザ設立準備委員会
- 4(火) 室蘭商工会議所との「ポータルネッサンス21調査」説明・懇談会
- 〃 北海道労働保険事務組合連合会道南地区協議会総会
- 5(水) (仮称)湯の川マリンパーク建設に係る設立検討準備会
- 〃 所報「ともえ」No.99(7月号) 編集会議
- 6(木) 第10回函館市商工連絡会幹事会
- 7(金) 市長と会頭との懇談
- 〃 渡島・松山地域雇用開発会議
- 〃 開港130周年記念函館港まつり企画委員会ロック部会
- 11(火) J R北海道青山函館支社長との懇談会
- 12(水) ユーロバリア'89日本祭函館実行委員会(第1回)
- 〃 国民金融公庫との勉強会
- 14(金) ユーロバリア'89日本祭函館実行委員会(第2回)
- 〃 (仮称)湯の川マリンパーク建設に係る設立検討準備会
- 〃 函館都心商店街振興組合第7回近代化推進委員会
- 〃 本所婦人会と青森商工会議所婦人会との昼食懇談会
- 15(土) 沖繩商工会議所との共済制度事業交流懇談会
- 19(水) (仮称)湯の川マリンパーク建設に係る設立検討準備会
- 〃 函館販売士協会理事会
- 21(金) 函館経営者協会幹事会

- 24(月) 開港130周年函館港まつり万人踊りパレード参加団体責任者会議
- 25(火) 開港130周年記念函館港まつり企画委員会
- 26(水) 函館シーポートプラザ創立総会
- 〃 開港130周年記念函館港まつり協賛会理事会・定時総会
- 〃 箱館奉行所復元促進期成役員会
- 31(月) 第3回函館市社会福祉懇話会

**\* 講習・催物**

- 6(木)~11(火) 第23回東北の観光と物産展
- 8(土)・9(日) 第23回東北六県観光まつり
- 11(火)・12(水) 第38回秋冬物産館靴履物卸合同見本市
- 12(水) 経営相談
- 13(木) 記帳講習会
- 16(日) 第42回函館地区珠算競技大会
- 19(水) 発明相談
- 20(木) 記帳講習会
- 22(土)・23(日) 函館湾 J B C オープンヨットレース
- 25(火) 東ロータリークラブ例会 (ゲストスピーカー)
- 28(金) 法律相談
- 29(土)~8月7(日) 青函ツイン提携記念「港祭り大門・五稜郭連合大売出し」

**\* 検定試験**

- 9(日) 第9回3級ワープロ検定試験
- 12(水) 第24回3級販売士検定試験

**\* 刊 行 物**

- 24(月) 所報「ともえ」No.99(7月号) 発行

**\* 相談・診断** 金融 109 税務 261 経理 33 経営 120  
労働 7 取引 0 その他 6 計 536

**\* 貸 室** 本館 19 別館 3

**\* 文 書 受 信** 268 発 信 17

**\* 慶弔・その他**

- 1(土) 開港 130周年記念、函館港まつりミスはこだてコンテスト審査会・表彰式
- 2(日) 本所常議員山田典夫殿ご母堂スエラ殿ご逝去
- 7(金) 商工懇話会満25周年祝賀パーティー
- 8(土) 海上自衛隊第1護衛隊群旗艦「しらね」艦内見学会
- 11(火) アメリカ総領事(新任)本所表敬訪問
- 14(金) 北海道拓殖銀行鈴木取締役会長並びに山内取締役頭取就任披露パーティー
- 15(土) 平成元年度函館市勤労青少年優良者表彰式
- 20(木) 函館ジャックス創立35周年記念講演会・祝賀会
- 〃 「第49回海の記念日」海事功労者表彰式・祝賀会
- 21(金) 日本航空(函館) - 東京線就航開設披露パーティー
- 22(土) 日本航空(函館) - 東京線就航第一便出発式
- 〃 全国水産物商業協同組合連合会全国大会・懇親会
- 28(金) 道経済界による北海道開発推進道民総決起大会
- 29(土) 第14回「高田屋嘉兵衛まつり」顕彰・慰霊式

65年の伝統と信用を誇る

## 早 川 特 許 事 務 所

特許、実用新案、意匠、商標、権利侵害

所 長 弁 理 士 早 川 政 名

〒112 東京都文京区白山5-14-7 早川ビル 電話 (03) 946-0531 <代表>

**発明相談 9月20日** 水曜日午前10時から午後5時まで、函館商工会議所で相談をお受けいたします。相談は予約制になっておりますので、商工会議所相談課 (23-1181・内線63番) にお申し込み下さい。

ルでも、青果物・水産加工食品メーカーからの引き合い活発化からこも増産態勢をとっている。また、漁網では、定置網の更新需要を主体に前年並みの生産水準を確保している。

#### (4)建設関連

管内主要管庁の公共事業発注額は、これまで本年度国家予算成立の遅れが響き低水準で推移していたが、6月に入って発注促進化が図られ、6月末段階ではほぼ前年並みの水準まで回復（主要5管庁の6月末現在発注額累計前年比△4.5%）。また、民需も企業の設備投資の盛行、新設住宅着工場等を映じ増勢傾向を呈している。こうした中、建設業者筋の一部では、資材価格の上昇・入手難を訴える先が散見されはじめている。

#### (5)農 業

農作物は、6月の日照不足、低温が響き、主力水稻をはじめ豆類の生育が幾分遅れ気味となっている模様。

#### (6)漁 業

近海マイカ漁は、魚群の来遊から6月に引き続き7月入り後も前年を大幅に上回る水揚げを記録。一方、噴火湾毛ガニ漁は不漁のうちに終漁。

#### (7)消費関連

6月の市内大型小売店（10か店）売り上げは、宝飾品等雑貨などが引き続き好伸したものの、主力衣料品が天候不順を映じ不振を託ったこと等から、全体では若干ながら前年を下回った（前年比△0.6%）。もともと、7月入り後は暑気到来に伴い夏物衣料の売れ行きが持直しているほか、中元贈

答品も順調な伸びを示している模様。一方、耐久消費財では、自動車販売が乗用車を中心に好調裡に推移（6月中の管内新車販売台数前年比+9.7%）しているほか、家電販売も、カラーTV、大型冷蔵庫等値嵩商品を中心に前年を幾分上回る売り上げをみている。

この間、観光・レジャー面をみると、当地への入込み客は、夏季シーズン入り後も好調に推移しており、ホテル・旅館の稼働率も、青函博等で高水準となった前年並みを確保している模様。

### 3. 金融事情（6月中）

○実質預金は、法・個人預金が大口定期、小口MMC等を中心に好伸したほか、交付金流入や税込増を映じた公金預金の積み上がりも寄与し、月中227億円増と前年（121億円増）を大幅に上回る増加。一方、貸出も建設・製造業等からの増運・設備資金需要の強まり等を背景に、月中102億円増と前年（72億円増）を上回る増加となった。この間、管内銀行の貸出約定平均金利は、新短プラへの切替えもあって月中+0.003%と3か月連続の上昇（4月+0.033%、5月+0.010%）。

○銀行券は、公務員ボーナス等の現金需要が嵩み、月中では51億円の発行超となった（前年、発行超50億円）。

○財政収支は、公共事業関係費が予算成立の遅れから前年を下回ったほか、租税、保険の受入れが多額にのぼったため、月中4億円の受超と前年（払超47億円）比様変わりの動き。



6月

# 地域の 景気

—— 日本銀行函館支店 ——

## 1. 概 況

- 最近の管内経済動向をみると、設備投資、個人消費を中心とする内需堅調を背景に、企業の売り上げ、生産は総じて高水準を維持しており、管内景気は裾野の拡がりに伴いつつ、引き続き好調裡に推移している。
- すなわち、製造業では、半導体、水産加工、乳製品等が需要の増加を背景に繁忙感を強め、増産態勢で臨んでいるほか、合板、段ボール等でも高目の操業を維持している。また、造船も受注環境の好転を支えに徐々に操業度を引き上げている。一方、非製造業では、建設関連筋が旺盛な民需に加え公共工事の発注促進もあって一段と繁忙の度を強めているほか、百貨店売り上げ、自動車販売等も総じて堅調地合いを続けており、また夏季シーズン入りした観光関連筋でも、観光・レジャー客の入込み増に潤い活況を呈している。

この間、管内の雇用情勢をみると、パート採用の困難化等労働需給は引き締りをみせている。

- 6月中の金融動向をみると、預金は大口定期、小口MMC等を中心とする法・個人預金の受入増を主因に、また貸出も増運・設備需資の強まり等から、それぞれ前年を上回る増加。この間、管内銀行の貸出約定平均金利は新短プラへの切替えもあって3か月連続の上昇。

## 2. 主要業種別動向

### (1)機 械

電子部品では、半導体がOA機器、大型家電向け等の受注増加から繁忙感を強めており、一部臨時工の採用等によりフル操業を続行、4月に生産を開始した水晶振動子も逐次生産を軌道に乗せつつある。また、このところ造船も、修繕船、産業機械に加え、新造船の受注獲得もあって操業度を引き上げている。一方、合板・製缶機械では、手持ち受注残高の消化を主体にまずまずの生産水準を維持している。

### (2)食 料 品

水産加工では、中元贈答用等を中心に出荷が好調のため、ここきて急遽残業増等により生産ピッチを引き上げる向きが増加。乳製品でも、首都圏等における飲用乳の売れ行き好伸等を主因にフル操業を続けている。また、飼料・魚油では、魚油（輸出）が再び伸び悩み気味ながら、主力飼料は荷動き好調のもと安値原魚の手当ても順便とあって生産水準を引き上げている。

### (3)その他製造業

合板では、輸入品（インドネシア産）流入減に伴う国内需給の改善もあって、前年を上回る生産、出荷を続けており、段ボー

ばないとみている。

**【製造業】**

今期比D I 24.0、前年同期比D I 14.5とい  
ずれもD Iがプラスを示し、増産が予想され  
る。

細業種でみると、総じて業績好転が予想さ  
れるが、特に水産加工業と造船業では今期比、  
前年同期比ともにD Iがプラスを示し、高操  
業が見込まれる。

**【卸売業】**

今期比D I 27.4、前年同期比D I 20.0とい  
ずれもD Iがプラスを示し、増額基調が予想  
される。

細業種でみても、減額を予想する業種はな  
く、特に医薬品・化粧品業・一般機械器具業・  
建築材料業では、今期比、前年同期比ともに  
D Iがプラスを示しており、燃料業も回復が  
見込まれる。

**【小売業】**

今期比D I 12.7、前年同期比D I 0.0と、今  
期比ではプラスを示し、売り上げ順伸が見込  
まれる。

細業種でみると、衣服・身の回り品販売業  
と食料品販売業が前年比ではやや厳しい見方

をしているが、今期落ち込んだ各種商品販売  
業は今期比、前年同期比ともにD Iがプラス  
を示し夏場への期待が持たれ、自動車販売業  
も引き続き順調な伸びが見込まれる。

**【サービス業】**

今期比D I 24.0、前年同期比D I 12.0と、  
いずれもD Iがプラスを示し、増額基調が予  
想される。

細業種でみると、自動車整備業以外は各業  
種とも業績好転を予想しており、特にホテル・  
旅館業と娯楽業では夏場シーズン入りで今期  
比、前年同期比ともにD Iがプラスを示し、  
観光客入込に期待が持たれる。

**3、資金繰りについて**

来期の資金繰りについては、全業種で今期  
に比べ「好転」とみる企業7.8%に対し、  
「悪化」とみる企業5.7%でD Iは2.1を示  
しているが、「変らない」とする企業が86.5%  
を占め、ほぼ今期並みに推移される見通しと  
なっている。

これを業種別にみると、建設業D I 8.0、製  
造業D I 2.2、卸売業D I △2.0、小売業D I 0.0  
サービス業D I 8.0を示しているが、各業種と  
も7割以上の企業が「変らない」としている。

**統 計 資 料**

第一種函館市内大規模小売店舗売上高 (10店) 平成1年6月

品 名	売上高(千円)	対前月比(%)	対前年同月比(%)
衣 料 品	2,650,187	91.9	98.1
身 回 品	526,798	94.6	102.9
雑 貨	601,044	91.8	114.2
家 庭 用 品	576,308	101.4	95.9
食 料 品	1,532,798	99.0	101.3
食 堂 ・ 喫 茶	159,845	88.3	97.8
サ ー ビ ス	92,156	103.4	101.3
そ の 他	524,465	112.1	86.8
総 計	6,663,601	95.9	99.3

※10店とは棒二森屋、丸井今井、さいか、和光、ハイショップホリタ、テーオー小笠原、  
長崎屋、イトーヨーカ堂、函館西武、ホリタショップパズプラザ湯の川店の各店をいう。

図-4 今期の資金繰り (対前期比)

	(D.I)	好転	横ばい	悪化
全業種 (0.5)	7.3	85.9		6.8
建設業 (4.3)	4.3	95.7		0.0
製造業 (-3.9)	9.9	88.3		7.8
卸売業 (6.2)	12.5	81.2		6.3
小売業 (-4.6)	4.5	86.4		9.1
サービス業 (4.0)	12.0	80.0		8.0

## 5, 経営上の問題点

今期最も苦慮している経営上の問題点としては、やはり「売り上げ・受注の不振」をあげる企業が多く、全業種で24.7%を占めている。

次に問題点を業種別にみると、建設業では「受注の不振」25.1%、「純利益の減少」20.8%、「工事価格の値下り」・「求人難」がそれぞれ12.5%。

製造業では、「求人難」27.6%、「売上げ・受注の不振」24.1%、「人件費等経費の増加」14.8%。

卸売業では、「売上げ・受注の不振」・「求人難・人材難」がそれぞれ23.5%、「販売価格の値下り」11.8%。

小売業では、「売上げの不振」・「求人難・人材難」がそれぞれ29.8%、「客足の減少」10.7%。

サービス業では、「同業者の競合」41.1%、「売上げの不振」18.2%、「営業経費の増加」・「求人難・人材難」がそれぞれ13.6%。

## 来期 (7月～9月) の見通し

### 1, 業況について

函館地域企業の来期業況見通しを全業種で見ると、今期に比べ「好転」とみる企業31.2%に対し、「横ばい」企業60.9%、「悪化」とみる企業7.9%でD Iは23.3とプラス、また前年同期比でも「好転」とみる企業23.0%に対し、「悪化」とみる企業が8.0%でD Iは15.0とプラスを示している。

業種別にみると、今期比では建設業D I 46.2、製造業D I 29.6、卸売業D I 14.0、小

売業D I 10.6、サービス業D I 28.0といずれもD Iがプラスを示し、建設業では「悪化」を予想する企業はなかった。

また、前年同期比でも、すべてD Iがプラスを示している。

このように来期業況見通しは、季節的要因もあり建設・観光関係は上向き、個人消費の伸びも期待され、総じて好転が見込まれる。

図-5 来期の業況見通し (対前年同期比)

	(D.I)	好転	横ばい	悪化
全業種 (15.0)	23.0	69.0		8.0
建設業 (19.2)	26.9	65.4		7.7
製造業 (18.2)	21.8	74.6		3.6
卸売業 (16.3)	22.4	71.5		6.1
小売業 (6.6)	22.2	62.2		15.6
サービス業 (16.0)	24.0	68.0		8.0

## 2, 売上額について

来期の売上げ見通しを全業種で見ると、今期み比べ「増加」とみる企業32.0%に対し、「横ばい」企業58.4%、「減少」とみる企業9.6%でD Iは22.4とプラスを示しており、前年同期比でも「増加」22.0%に対し、「横ばい」企業64.9%、「減少」企業13.1%でD Iは8.9とプラスを示し、増額基調が見込まれる。

次に来期の売り上げ見通しを業種別にみると

図-6 来期の売り上げ見通し (対前年同期比)

	(D.I)	増加	横ばい	減少
全業種 (8.9)	22.0	64.9		13.1
建設業 (-13.1)	13.0	60.9		26.1
製造業 (14.5)	20.8	72.9		6.3
卸売業 (20.0)	26.0	68.0		6.0
小売業 (0.0)	24.4	51.2		24.4
サービス業 (12.0)	20.0	72.0		8.0

## 【建設業】

今期比ではD I 25.0とプラスを示し増額を見込んでいるが、前年同期比ではD I △13.1とマイナスを示している。

細業種で見ても、各業種とも今期比では順調な伸びを予想しているが、昨年実績には及

同期比D I △3.9と、横ばい状態で推移した。

細業種でみると、設備工事業はやや低調だが、総合工事業、職別工事業は横ばい状態となった。

このように今期の建設業界は、公共事業が盛り上がりを見せている中、個人住宅建築の5月の落ち込みが影響してか、企業の見方には慎重なものがある。

**【製造業】**

今期の生産額は、前期比D I 24.5、前年同期比D I 3.7と、いずれもD I がプラスを示し、生産活動は活発化している。

細業種でも、全般的に増額基調にあり、特に前期比では水産加工業、飲食料品業で

「増加」と回答する企業が過半数を占める等増産体制にあり、また造船業もD I はプラスを示し上向いている。

**【卸売業】**

今期の売上額は、前期比D I 24.0、前年同期比D I 4.1と、いずれもD I がプラスを示し、増額基調で推移した。

細業種でみると、燃料業以外は引き続き好調に推移しており、特に食料品業、一般機械器具業では前期比、前年同期比ともにD I がプラスを示している。また、織物・衣服・身の回り品業と建築材料業は、前期比では業績好転しているが、前年同期比ではD I がマイナスを示している。

**【小売業】**

今期の売上額は、前期比D I △8.5、前年同期比D I 7.0と、消費税導入の影響もあり前期比ではD I がマイナスを示し、やや落ち込みをみせた。

細業種でみると、大型店・スーパー等が中心となる各種商品販売業では前期比、前年同期比ともに「増加」と回答する企業がない程厳しい結果となったが、一方逆に物品税の廃止による価格低下に期待が持たれた自動車販売業では、普通自動車の好伸から大幅に増加

する等、業種間に明暗をみせた。

**【サービス業】**

今期の売上額は、季節的に前期比ではD I 20.0と増額基調だが、前年同期比ではD I △13.0とマイナスを示し、昨年度の高実績には及ばないものがある。

細業種でみると、自動車整備業以外は増額基調で推移しており、特にホテル・旅館業と観光施設が中心となる娯楽業が高実績をあげており、観光客の入込好調が窺われる。

図-3 今期の純利益 (対前年同期比)

(D.I)	増加	横ばい	減少
全業種 (-12.1)	17.2	53.5	29.3
建設業 (-20.0)	4.0	72.0	24.0
製造業 (-3.7)	23.6	49.1	27.3
卸売業 (-8.3)	18.8	54.1	27.1
小売業 (-21.3)	14.9	48.9	36.2
サービス業 (-13.0)	17.4	52.2	30.4

**3、純利益について**

今期の純利益を全業種でみると、前期に比べて「増加」している企業20.3%に対して、「横ばい」企業48.0%、「減少」している企業31.7%で、D I は△11.4とマイナスを示しており、前年同期比でも「減少」企業29.3%が「増加」企業17.2%を上回ってD I は△12.1とマイナスを示し、減益基調で推移した。

業種別にみると、各業種とも減益基調にある中で、製造業の水産加工業、卸売業の食料品業、建築材料業、小売業の自動車販売業、サービス業のホテル・旅館業、娯楽業が増益基調で推移した。

**4、資金繰りについて**

今期の資金繰りを全業種でみると、前期に比べ「好転」した企業7.3%に対し、「悪化」した企業6.8%でD I は0.5を示し、「変らない」とする企業が85.9%を占め、ほぼ前期並みに推移した。

細業種でも、すべての業種で8割以上の企業が「変らない」としている。

経済の窓

(平成元年度 第1・四半期)

景気動向  
調査

平成元年度第1・四半期（平成元年4月～6月）の函館地域における景気動向調査結果がまとまりましたので概況をお知らせします。

尚、調査対象及び回収状況は次の通りです。

業種別	対象企業数	回収企業数	回収率
全業種	395社	262社	66.3%
建設業	50	33	66.0
製造業	100	66	66.0
卸売業	80	60	75.0
小売業	120	71	59.2
サービス業	45	32	71.1

(注)本調査結果の中でD Iとある記号は、デフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について増加（好転・上昇）企業割合から、減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値を示しています。

今期（4月～6月）の実績

1、業況について

函館地域企業の今期業況を全業種でみると、前期に比べ「好転」している企業32.4%に対し、「横ばい」企業52.9%、「悪化」している企業14.7%で、D Iは17.7とプラスを示し、好調感を増している。

これを業種別にみると、建設業D I 7.7、製造業D I 25.0、卸売業D I 20.4、小売業D I 6.2、サービス業D I 28.0と、いずれもD Iがプラスを示している。

また、今期の業況を前年同期比でみると、全業種では「好転」企業26.8%に対し、「横ばい」企業50.0%、「悪化」企業23.2%で、D I

は3.6と、小幅ではあるがプラスを示し、向上した。

これを業種別にみると、建設業（D I Δ4.8）とサービス業（D I Δ4.8）以外は、いずれもD Iがプラスを示している。

このように前年同期比で今期業況をみると、前年の反動もあり建設・観光関係がやや低調、個人消費は消費税導入の影響もあり伸びが鈍化する等、一部で今一つ伸び悩んだが、総じて企業活動は前年実績を上回り、比較的好調に推移した。

図-1 今期の業況（対前年同期比）

	(D.I) 好転	横ばい	悪化
全業種 (3.6)	26.8	50.0	23.2
建設業 (-16.0)	16.0	52.0	32.0
製造業 (3.7)	25.5	52.7	21.8
卸売業 (12.5)	33.3	45.9	20.8
小売業 (8.9)	31.1	46.7	22.2
サービス業 (-4.8)	19.0	57.2	23.8

2、売上額について

今期の売上額の状況を全業種でみると、前期に比べ「増加」している企業35.3%に対し、「横ばい」企業42.3%、「減少」している企業22.4%で、D Iは12.9とプラスを示し、増額基調で推移した。

また、今期の売上額を前年同期比でみると、全業種では「増加」企業27.8%に対し、「横ばい」企業45.9%、「減少」企業26.3%で、D Iは1.5と若干ながらプラスを示している。

次に売上額を業種別にみると、

図-2 今期の売上額（対前年同期比）

	(D.I) 増加	横ばい	減少
全業種 (1.5)	27.8	45.9	26.3
建設業 (-3.9)	19.2	57.7	23.1
製造業 (3.7)	24.1	55.5	20.4
卸売業 (4.1)	33.3	37.5	29.2
小売業 (7.0)	37.2	32.6	30.2
サービス業 (-13.0)	17.4	52.2	30.4

【建設業】

今期の工事完成額は、前期比D I 0.0、前年

# 「金利自由化」 など最近の話題を読む

毎日目を通して何でも興味をもとう



経済評論家

石井 勝利

## 経済記事の読み方(下)

前は新聞の経済記事の読み方について、マクロ的な立場から述べたが、今回は、各論的に解説してみることにしよう。ただし、各論とはいっても、経済に関する事柄は、あまりにも多く、これをすべて取り上げるわけにもいかないの、とりあえず、今日的な問題について、二、三の項目を紹介し、経済記事の読み方のコツをわかっていただくことにしよう。

### ① 為替相場の読み方とその影響

最近の経済問題の注目の一つは「円安・ドル高」「円高・ド

ル安」といった為替の問題である。とくに注目されるのは、世界の基軸通貨としての「ドル相場」の動向だ。なぜならば、ドル相場が上昇すればアメリカの貿易赤字、産業の好不況といった問題に発展し、ひいては、日本との貿易摩擦をいっそう激化させることになるからである。

また、日本にとっては、円高は物価の安定、輸入の促進になるが、反対に、円安が進みすぎると輸入物価の押し上げ、物価の上昇、そして、ひいては、公定歩合の再引き上げにつながる。このことは、われわれの商売や生活にダイレクトに影響するので、少なくとも、この為替相場の仕組み、そして、その影響くらのことは、日々の新聞で読めるようにしたい。これは、株価にも少なからず関係してくるからである。

### ② 公定歩合の引き上げはどんな時に行うか

経済記事の中で、良く出てくるのが、この「公定歩合」である。あまり、一般になじみにくいのが、市中銀行(都市銀行など)が日本銀行から借り入れるときの「金利」といえばわかりやすいであろう。

一般の商店ならば、いわゆる商品の仕入れ値である。商店は

その値段に、一定のマージンを乗せて小売りし収益を得る。銀行も同じで、公定歩合の金利に一定の経費や利益を乗せて、企業や個人に貸すのである。

したがって、公定歩合が引き上げられれば、貸し出し金利が上昇し、企業は借入れに慎重になる。そうすると資金の量が減るので、インフレの防止になるし、為替相場のうへでは円安の防止になる。

### ③金利の自由化はどうなるか

金利の自由化も、実は日米の貿易摩擦の中で議題になったことで、金融機関がこれまでのように大蔵省が決めた「規制金利」の商品のみを扱うのではなく、銀行の努力によって、預金者から集めるお金に対する利子にある程度の差をつけることである。すなわち、金融機関同士の競争をうながそう、ということである。アメリカでは普通預金にまでこの「金利の自由化」が進んでいるのである。

当然ながら、この金融機関同士の競争を日本にも持ち込んでくるのは自然のことである。すでに、日本ではCD（譲渡性預金）、大口定期が完全自由化になっているが、この六月から小

口M M C（小口の市場連動型預金）も自由金利の一種として一般に売り出されている。これはCDに連動したもので、「スーパーM M C」の名のもとに、どの銀行に行っても、その時点での金利は同じである。

しかし、ゆくゆくは日本でもさまざまな金融商品が自由化され、金利、金融ともに多様化していくことが考えられる。

ということで、経済は互いにさまざまな事象がからみ合い、われわれの仕事や生活に関してくるので、片時も目を離せないことになる。とにかく経済記事に慣れるコツは、日々これに目を通し、どんなことでもよいかから興味をもつことに始まるといえよう。

### 【石井 勝利（いしい・かつとし）氏の略歴】

一九三九年栃木県生まれ。早稲田大学政治経済学部卒。文化放送を皮切りに新聞社などマスコミ三〇年。株式、金融、ビジネス、住宅評論から、経営コンサルティングまで幅広い活動をしている。おもな著書に『日本経済新聞を120%読みこなす法』『今までで一番わかりやすい経済のはなし』ほか多数。

# みんなの 相談室



**問** 毎月の給料から源泉徴収した所得税を、その翌月の十日までに銀行へ出向いて納めていますが、私の会社は従業員が八人であり、数も少ないのでずっと納税を簡単にする方法はないでしょうか。

**答** 給与などの支払いの際に源泉徴収した所得税は、通常は、翌月十日（その日が休日に当たる場合翌日）までに納めなければならぬことになっています。しかし、給与などを支給する人が常時十人未満にあるときには納付の手続きを簡単にするために、二年二回納付することができる「納

期の特例」の制度があります。

「常時十人未満」であるかどうかの判定は、給与などの支払いをうける人が、平常の状態でも十人未満であるかどうかによって決定します。

従って、忙しい時期に、臨時に使用した人数を含めると、十人以上となっても、平常は十人未満であれば、納期の特例をうけることができます。それでは「納期の特例」をうけるための手続きについて説明します。

納税地の所轄税務署長に「源泉所得税の特例の承認に関する申請書」を提出して承認をうけることが必要です。なお、この申請書が提出された月の翌月末日までに税務署長から通知がない場合は、同日において承認があったものとみなされます。

次に、納期の承認をうけた場合納税する期日は、いつから適用になるかと申しますと、税務署長から承認の通知が到着した日（通知がない場合は、申請のあった月の翌月末日）の属する月に源泉徴収をしたものから適用されることになり、納期限は次のようになります。

(1) 一月から六月までの期間に支払った給与などから源泉徴収をした所得税額については、七月十日までに

(2) 七月から十二月までの期間に支払った給与などから源泉徴収をした所得税額については、翌年の一月十日までに（さらに一定の届出書を提出することにより一月二十日までとすることができます。）

なお、これらの納期限に遅れますと、本税のほかに不納付加算税が課され、更に延滞税も納めなければならぬこととなりますので十分ご注意ください。

最後になりますが、納期の特例の承認を受けた後、従業員が平常で十人以上となった場合には、納期の特例が受けられなくなりますので、速やかに「納期の特例の要件に該当しなくなったことの届出」を納税地の税務署長に提出しなければなりません。

この届出書を提出した場合、納期の特例期間中に既に源泉徴収をしていた所得税は、その届出書が提出された月の翌月十日までに納付しなければなりません。

## 展望台から星型の史蹟五稜郭を

披露宴・大小ご宴会承ります

- 観光のお客様から地元のお客様のご希望を満たすお手伝いをモットーに！
- 展望台・史蹟館・売店・食堂・喫茶
- 駐車場完備・年中無休

 **五稜郭タワー**

☎040 函館市五稜郭町43-9 ☎(0138) 51-4785

自慢の和食専門店

カウンター・小上がりもあります！  
タワー別館、花屋敷味処

**積雲亭**

☎54-3221

